

「くろかみ学園すみよしの里」 施設の紹介

くろかみ学園すみよしの里
施設長 永尾 忠博

くろかみ学園は、知的障がい児の入所型施設として昭和40年9月開設されましたが平成になり、少子化や在宅福祉の推進等により入所児童数が減少しましたので、平成10年9月に新たに建物を建設して、くろかみ学園定員30名・すみよしの里定員40名・短期入所定員4名で再スタートしました。

施設の特徴は、なんといたってもくろかみ学園の時代から今日までに、約140名の人たちを社会参加（就職）させて来たことだと思います。今日では、国や県も一体となって障がい者の地域移行や就労を推進されていますが当時は施設入所者の就職率が1%未満の時代に中軽度障がい者の方は勿論のこと、中には重度障がい者の方も数名おられ、現在でも続けて就労されておられる方もいらっしゃいます。

くろかみ学園・すみよしの里では今も生涯を施設で終えるのではなく、できる限り地域に移行をして頂き就職、就職がどうしても無理な方は福祉的就労をして頂くように日中活動（ドリーム）では農作業や創作活動、ワーク、機能訓練等、個々の個性や能力に応じて無理のない支援を行っています。

また生活能力の向上を目指して、自活訓練棟にて、自分たちだけで買い物や自炊、洗濯、掃除などが出来るように体験をしていただいています。大変好評で皆さんまたやりたいと楽しみしておられます。

当施設では、施設も一つの家庭だと考えています。陶器食器による温かい食事の提供や日中活動日の毎日入浴、また将来は地域の中で生活されることを考えて、できるだけ一般の家庭と同じような生活を送ってもらえるよう工夫しています。

バスや電車を利用しての買い物や余暇活動（カラオケ、映画、バーベキュー、地域行事への参加等）またユニットによる活動（旅行、温泉、サッカー観戦、野球観戦、相撲観戦等）に積極的に参加をして、いろいろな体験や経験をして頂き将来社会参加をされた時に戸惑われることがないように準備をしています。

また、保護者会や地域の方々の参加協力を得て『ふれあい夏祭り』や『よってみんな祭きてみんな祭』など住民参加型の催し物を実施して地域に開かれた施設作りに努めています。

その他、グループホーム利用者様や在宅の障がい者の方々が地域の中で安全に安心して暮らしているように相談支援事業を始め、短期入所、日中一時支援、家事援助、行動援護、外出支援、移動支援、福祉有償運送等の福祉サービスを提供させて頂いています。

利用者さま、職員ともども夢と希望をもってその夢や希望が叶うように日々明るく、楽しく、元気に過ごしています。

